

のぞみ幼稚園 令和7年度 募集要項

子ども時代は、人間の一生のなかで、一番幸せを感じることができる時代です。子ども時代をいかに生き生きと生きたかということが、大人になった時のがんばれる力になるのだと思います。子どもの心はひとりひとり違います。ですから、のぞみ幼稚園では、保育者は交代制ではなく、クラスの担任がひとりひとりの子どもの心に寄り添って、その成長を見守り育てています。幼稚園で行う幼児教育は、保護者の代わりに預かっているだけではありません。幼児期にふさわしい教育を行い、子どもの力を伸ばしていくためのものです。

募集人員

満3歳児 令和4年4月2日以降のお生まれで満3歳の誕生日以降 20名程度
入園は、満3歳の誕生日からとなります。

すでに満3歳になられていて、今すぐ入園を希望される時はお問合せください。

3歳児（3年保育）令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれ 20名程度

4歳児（2年保育）令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれ 若干名

応募条件

1. 上記の年齢の幼児であること。
 2. 保護者が本年の教育を理解し、協力できること。
 3. 保護者が責任をもって、幼稚園あるいは通園バスの乗降場所まで送迎できること。
- ※当園に入園を希望なさる方は原則的に全員受け入れています。1対1対応の補助の教員の配置を必要とする幼児の入園はお受けすることはできません。
- ※食物アレルギーについては、形のある玉子の除去程度の対応しかできません。

入園時必要経費

入園申込金（願書提出時）	2,000円
新入園特別教育充実費（入園時）	30,000円
用品代	約13,000円

※転勤等事情のある方は、新入園特別教育充実費および用品代の納付を転勤がないということがわかるまで、お待ちしますので入園手続きの際に申し出てください。



毎月納付していただく費用

保育料（幼児教育無償化により保育料の保護者負担はありません。）

教育充実費 5,000円

給食費（8月は徴収しません。令和6年度の金額） 5,900円

保護者会費（令和6年度の金額） 600円

通園バス協力費（利用者のみ徴収、8月は徴収しません。） 3,300円

・教育充実費は毎月15日前後に現金で納めていただきます。

・給食費、通園バス協力費は毎月末に現金で納めていただきます。

見学日等のご案内

見学はいつでもできますので、子どもたちの活動を実際にご覧になってください。（見学の際はお子さんの上履き等をご持参ください。）

保育内容の説明を10月10日（木）11時30分からいたします。ご都合の悪い方は他の日におこないます。

- ◇10月 1日（火）令和7年度 入園案内配布開始
- ◇10月10日（木）入園希望者保育内容説明会11時30分～
- ◇10月26日（土）運動会（未就園児のかけっこもあります。）
- ◇11月 1日（金）入園願書受付（8時～18時30分）

入園手続きについて

受付日（11月1日8時～18時30分）に所定の入園願書に、ご記入の上、幼稚園にいらしてください。

当日受付順に面接および入園手続きを行います。入園時必要経費をご用意ください。

※ 入園式 令和7年4月8日（火）10時からを予定しています。

※ 通園バスについては、原則的には現在運行しているコースを運行します。運行できない場所もありますので事前に確認して願書を提出してください。

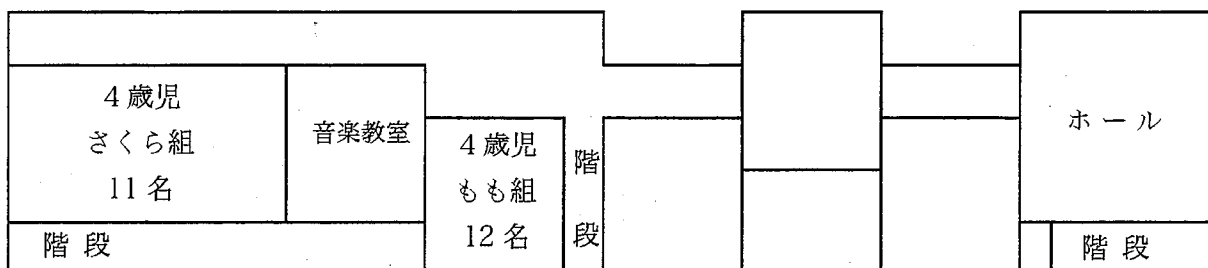
※ 質問等がございましたら、遠慮なく幼稚園事務室まで多い合わせください。



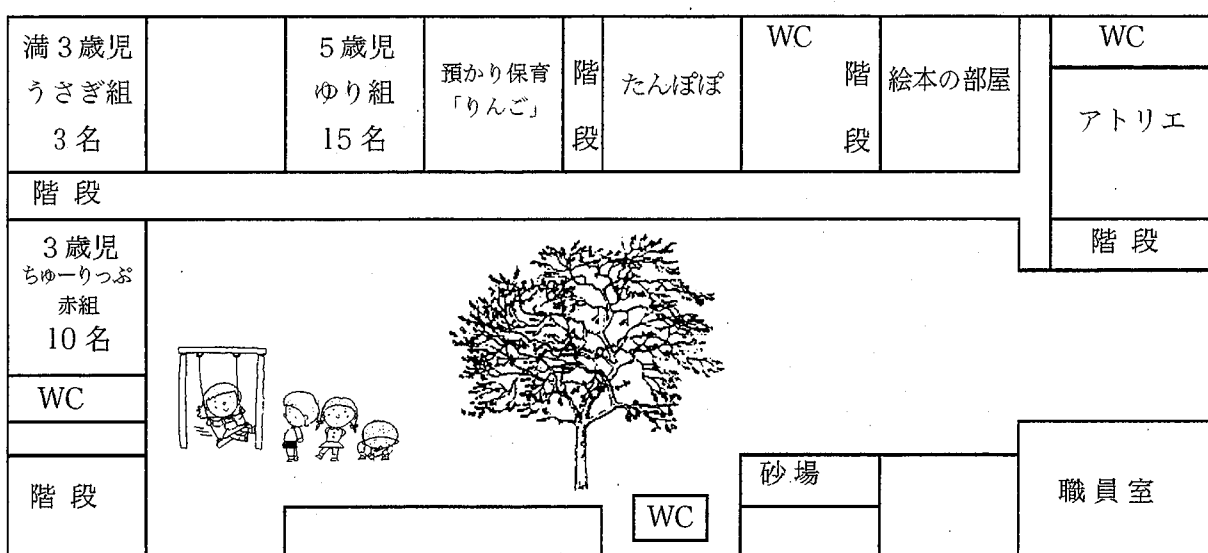
令和6年度 のぞみ幼稚園 案内図

令和6年10月1日現在

2 階



1 階



個人情報保護に関する基本方針

のぞみ幼稚園は、園児、卒園児及びその保護者の方からご提供いただいた個人情報の重要性を深く認識し、情報の保護の徹底を図るため以下の方針を定めます。

1. 当園は、個人情報の保護に関する法令、およびその他の関連法令を遵守します。
2. 当園は、個人情報をご提供いただく際に、その利用目的をできるだけ特定し、皆さまにお知らせいたします。
3. 当園は、ご提供いただいた個人情報が正当な理由および必要性が認められる場合を除き、第三者に提供することはいたしません。

※また、幼稚園には、時々、テレビ局や新聞等のメディアの取材があります。お子さんの写真や映像が、放送や掲載されることを望まない場合は、担任まで申し出ておいてください。できるかぎり写らないように配慮します。

幼稚園での1日の生活（登降園時刻等）

通常の保育時間の日		学期の始め等午前保育の日	
時刻	主な活動	時刻	主な活動
7:20	バス1番線園出発	7:20	バス1番線園出発
8:00	登園始まり 自由遊び	8:00	登園始まり 自由遊び
10:30	かたづけ	10:00	かたづけ
10:45	クラスでの活動	10:10	クラスでの活動
11:45	給食の用意	10:45	降園用意
12:00	給食	11:00	降園のバス1番線出発
12:45	自由遊び	11:25	徒歩通園者降園
13:30	かたづけ 降園用意	12:05	降園のバス2番線出発
14:00	降園のバス1番線出発	※土曜日は休園です。	
14:25	徒歩通園者降園		
15:05	降園のバス2番線出発		

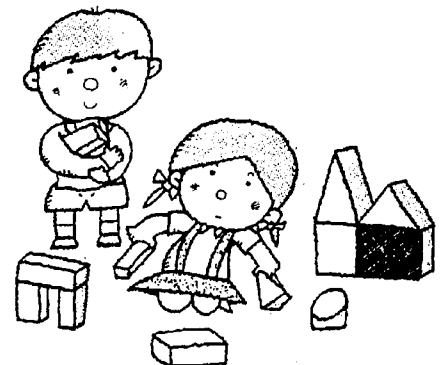
朝、子どもたちは出席ノートにかわいい絵柄のスタンプを自分で押します。カバンや帽子を自分のロッカーにかたづけてからブランコや砂場や絵本の部屋など自分の好きな場所で好きなことをして遊びます。子どもたちにとって、いちばん楽しい時間です。

10時30分頃からはクラスごとの活動をします。歌を歌ったり、リズム遊びをしたり、絵を描いたり、体育的な遊びをしたりなどクラスのみんなで遊びます。近くの神社や広場におさんぽに行ったりもします。

いっぱい遊んでおなかがすいた頃に、給食室からおいしそうなおいおいがしてきます。お家では嫌いで食べないものも、みんなといっしょだと不思議に食べてしまいます。（給食は4月中旬から始まります。）

食べ終わってから帰りの用意をするまでは自由に遊びます。帰りの用意ができてからは通園コースごとに紙芝居を見たり、歌を歌ったりします。

そして、お家へ帰ります。



幼児期の教育とは

幼稚園で行う幼児教育は、単なる家庭の養育の代替ではありません。幼児期にふさわしい教育を行い、子どもの力を伸ばしていくためのものです。

子ども子育て支援新制度が実施され、多くの子育て支援施設が整備されました。しかしながら、子どもを長時間預かる施設を増やすことが、子どもを育てやすい社会を作ることになるとは思えません。ワークライフバランスを考えたり、母親の育児への不安や負担を軽減することも必要です。働き手を増やすことを第一の目的としているように思える子育て支援制度は、子どもに犠牲を強いているように思えます。

のぞみ幼稚園は、こどもの幸せを第一に考えた幼児教育を実施したいと思っています。



教育は安定した養護の基盤の上に成り立ちます。

養護とは生命の保持と情緒の安定ということです。その上で、心身の健康・社会性・自然や社会との関わり・言葉（考える力）・表現力などの教育が成り立ちます。教師が子どもを受け止め、子どもの思いを生かそうとすることで、子どもはやってみたいことをやろうと動き始めます。幼児教育が始まるのです。

子どもの遊びは、大人の暇つぶしとは、まったく違います。

幼児にとっては遊びこそが学習です。ですから、全力で遊びます。教師は、その遊びの中から、今の経験と将来に向けての芽生えの双方をとらえます。子どもが今、その遊びにおいてどういう経験をしているのか、そこからどんな学びが成り立ちそうかを見取ります。同時に、それが先に向けてどう伸びていくのか。来週の遊びにどう発展するか。さらに数ヶ月の長い期間の育ちにどう広がるのかを見通して、今のその遊びを指導していくのです。

育てることと伝えること（のぞみ幼稚園の教育方針）

子どもたちに何かを教え込むのではなく、それぞれの子どもたちが持っている能力を認めて、育てることを大切にしています。

幼稚園での遊びは、鬼ごっこやあやとりなど、昔から伝承された遊びが多く、お金がかかりません。現代の価値基準から見ると、お金を使わないので、粗末な遊びに見えるかもしれません。

でも、幼児にとって、質の高い知的活動とは、いかに五感を多く使うかということです。ですから、おもちゃや遊園地のアトラクションなどの「与えられた受け身の遊び」よりも、自分から積極的にかかわり、そして、手仕事や身体的活動を伴うものが、子どもにとっては質の高い遊びなのです。幼児にとっては、高価なテレビゲームよりも泥団子のほうが、ずっと素晴らしい遊びです。

クオリティーの高い幼児教育をめざして

のぞみ幼稚園では、メニューが盛りだくさんであることよりも、教育の質の高さをめざしています。のぞみ幼稚園の先生は歌や踊りが上手です。外部の専門家に技術的にはかなわないにしても、担任の先生なら、その子の個性やその日の気持ちを配慮して指導することができ、また、なにげない普段の「ごっこあそび」の中でも子どもの表現力を育てることができるからです。

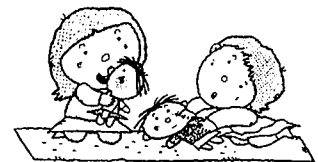
のぞみ幼稚園では、表現活動に力を入れています。のぞみ幼稚園では「自分の声」というすばらしい楽器を使って「歌うこと」を音楽的表現活動の中心としています。そうして、4歳児の後半、あるいは5歳児になると、自分で歌いながら踊って表現する「オペレッタ」を全員で演じられるようにもなります。何人もの卒園生がプロのピアニストや声楽家として活躍しています。

幼稚園の役割とは

子ども時代は、人間の一生のなかで、一番、幸せを感じることができる時代です。子ども時代をいかに生き生きと生きたかということが、大人になった時のがんばれる力にも、なるんだと思います。そんな、子どもたちが生き生きと生活できる場を提供するのが幼稚園の役割だと思います。

また、子ども時代は、知識の量ではなく、考える力をつける時です。子どもは、遊びをより面白くするために、どうしたらいいかと、いろいろと考えます。サッカーごっこにしてもゴールを広くしてみたりと、自分たちの力にあったルールを工夫して遊んでいます。このようなことは、知識としては、役にたたないかもしれませんが、確実に、考える力の基礎となっています。

今の子どもたちが大人になり、職業に就く時には、知識の量を求められる職業のほとんどは、コンピューターに置き換わっているといわれます。その時代に必要とされることは、目標に向かって頑張る力だとか、リーダーとして必要とされる優しさや協調性など「良い性格」を育てることだと言われています。そのような力を育てるのが幼児の時代です。



やさしさと 生きる力を育てる（遊ぶことによって得られるもの）

社会に出てから個人に求められる能力としては、知識以上にリーダーシップをとれるかということだと思います。リーダーシップというと、スポーツができるとか、勉強ができるとかというイメージがあると思いますが、今の時代「黙って俺についてこい」、では、だれもついてこないと思います。

本当のリーダーシップとは、仲間を思いやる心、やさしさだと思います。仲間を思いやる心があつてこそ、仲間はついてくるのです。その、やさしさが育つのは、子ども時代の仲間遊びだと思います。テレビゲームのような一人遊びでは、やさしさは育ちません。本当のやさしさは、教えられるものではなく、瑞々しい感性と聡明さによって、自ら獲得するものだと思います。

のぞみ幼稚園についての Q & A

Q. のぞみ幼稚園は、どうして制服じゃないの？

A. 制服だと、〇〇ちゃんというまえに、〇〇幼稚園の子というふうに見えてしまいませんか。制服があると、先生は自園の子どもが一目でわかるので、園児の管理が、しやすくなります。でも忘れてはならないことは、子どもは、ひとりひとり個性を持った人間であるということです。ひとりひとりを大切にしたい幼児教育をするために、のぞみ幼稚園には制服がありません。制服があるということは無意識のうちに管理優先になってしまい、ひとりひとりを大切にできなくなってしまうと思うからです。



また、衣服はお子さんの個性やセンスを育てる大切な要素です。お子さんが自分自身で他人の真似ではなく自分に一番似合った服を選べる目を育てることは大切なことだと思います。

幼稚園はお子さんにとって初めての集団生活ですので、幼稚園に行くということだけで大変な緊張を強いられています。子どもたちがのびのびと遊ぶためには、幼稚園はできるだけ家庭と違和感のない方が良いと思います。

Q. 制服がないと子どもの服装の華美をきそうことはありませんか？

A. 子どもたちは、毎日、かけっこをしてころんだり、砂場で遊んだりしてドロコになって帰ります。お子さんの生活を第一に考えれば、みなさん活動しやすく汚してもかまわない服をお着せになるようです。

素敵な制服の幼稚園が人気があるようですが、幼稚園についたら体操服に着替えてから遊ぶそうです。年少児ですと、体操服に着替えるために15分位かかり、また、降園前に制服に着替えるために、また15分、子どもにとっては、貴重な遊ぶ時間が制服を着替えるために減ってしまうのは、もったいないと思います。

Q. のぞみ幼稚園では、お勉強は教えてくれないのですか？

A. のぞみ幼稚園ではワークブック等を使って一斉にお勉強を教え込むことはしていませんが、絵本の読み聞かせや、さまざまな言葉遊び、文字遊びをとおしてお子さんに文字への興味や意欲を引き出すようにしています。そして、興味をもった時には一人一人ていねいに教えていますので、小学校で文字が覚えられなくて困るということはありません。

高校・大学への入学は全入時代になったとはいえ、入試がありますから、幼稚園からお勉強をという保護者の方のご要望はもつともだと思えます。遊んでばかりいないで、その時間、お勉強させれば頭がよくなると思いにいるかもしれません。けれどもお子さま一人一人興味のでる時期も、理解する力がつく時期も異なっていますから、一斉に同じ時にワークブック等を使っての文字や数の指導は、それこそ無駄なだけでなく、かえってお子さんがそれらを学ぶ基礎的な力を育む大切な時期を妨げてしまっているのです。

たとえば、子どもは「さ」と「ち」などの文字の左右を間違えて書くことがよくあります。これは右と左の区別が感覚的に身につけていないことによって起こります。一斉に同じ時に教えようとする、まだ右と左の区別が感覚的に身につけていない子どもは大変苦勞し、自分は どうしてできないんだろうと悲しい思いをすることにもなります。右と左の感覚的な区別は生活の中で徐々に身につけていくものですから、遊んでばかりいるように見えても、かえって遊ぶことによって、自然に文字や数を覚える力がついているのです。

Q. のぞみ幼稚園では子どもをのびのびと遊ばせてくれると聞きましたが、お行儀が悪くなるということはありませんか？

A. のぞみ幼稚園が、お子さんの自由な遊びを重視しているのは、お子さんの心を育てることを大切に思っているからです。先生が何かを教え込もうとする一斉教育の中では、子どもたちは先生の指示どおりに動いていなければならないので、お友だちとケンカをすることもあまりありません。また、異年齢児とかかわりをもつこともありません。けれども、自由な遊びの中ではそれぞれがやりたい遊びをしようとするのですから、当然お友だちとの意見のぶつかりあいもあり、ケンカもあります。こうしたお友だちとのかかわりの中で社会生活を営む力や、いたわりの心が、めばえてきます。

お作法の時間があったり、厳しくしつけをする幼稚園ならば、きちんと両手をそろえてごあいさつができた、長時間つくえに向かってじっと座っていただけることでしょう。

けれども、幼稚園時代に必要なことは、「朝、おはようってあいさつすると気持ちいいね。」とか、「ケンカしたらお互いにいやな気持ちになっちゃうな！」とか、人間として一番大切な「心」を育てることだと思えます。



Q. のぞみ幼稚園は、鼓笛隊をやらないのですか？

A. 鼓笛隊は華やかで、一見すばらしい音楽教育がなされているように見えます。けれども、パレードのために炎天下で長時間練習したり、また雨の中でパレードをしたりと、楽しいはずの音楽が、忍耐力養成の時間になってしまいます。

のぞみ幼稚園では「自分の声」というすばらしい楽器を使って「歌うこと」を音楽的表現活動の中心としています。外部の専門家に技術的にはかなわないにしても、担任の先生なら、その子の個性やその日の気持ちまで配慮して指導することができるからです。また、なにげない普段の「ごっこあそび」の中でも、子どもの表現力を育てることができるからです。

そうして、4歳児の後半、あるいは5歳児になると、自分で歌いながら踊って表現する「オペレッタ」を全員で演じます。作曲家の藤田妙子先生に依頼して、「何かいいことが始まりそう」というオペレッタをのぞみ幼稚園の子どもたちのクリスマス会のために作曲していただきました。

また、3・4歳児はカスタネットやタンバリン、すずを使って、遊びの中でリズム感を身につけるようにし、4歳児の後半から少しずつ、自分でメロディーが楽しめるようにハーモニカの練習もしています。

Q. まだトイレが上手にできないのですが？

A. 3歳児各クラスのお手洗は幼児用の洋式トイレを備えています。4・5歳児のお手洗には洋式トイレと和式トイレの両方があります。まだ、自分一人では上手にできなくてもあせることはありません。和式トイレに慣れていないお子さんでも大丈夫です。ご心配な方はどうぞ気軽にご相談ください。



絵本の「ちいさなおうち」が
のぞみ幼稚園にはあります。
じつはお庭のトイレです。

Q. 子どもが幼稚園でケガをしないようにしていただけますか？

A. ある幼稚園では新入園児が園庭で遊ぶと目が届かないというので、数ヶ月もの間、保育室にカギをかけて園庭に出さないそうです。自由に遊ぶことができれば、入園当初でも泣かないで、幼稚園でのほとんどの時間を目を輝かせて遊ぶことができます。子どもが思いっきり遊べば、ころんですりきずをつくるのはよくあることです。けれども、それを恐れて遊ばせなくては運動能力も育たず、将来生命にかかわる危険に遭遇した時にそれを避ける能力も育ちません。

また、たまにひっかき傷になっても、ケンカをすることによってお互いにいたわる気持ちとか、大きくなった時に自分の心をコントロールする力が身に付くのです。

このことは、お勉強ができるようになることよりも、大切なことだと思います。

とはいえ、ケガやケンカを放任しているわけではありません。幼稚園としても、お子さんがなるべくケガをすることがないように、幼児に適した遊具や園舎の施設等を設置するとともに、園児一人一人の個性や行動にできるかぎりの配慮をしています。



Q. 言葉が遅れているのですが受け入れてもらえますか？

A. 子どもにはひとりひとり個性がありますから、子どもへの接し方もひとりひとり違います。他の子どもよりも時間をかけて、丁寧に接してあげることが必要な子どももいれば、自宅で過保護気味に育てられている場合等、幼稚園では多少教師が離れた接し方をすることが必要な子どももいます。保護者から見れば、あの子にはあんなに手をかけているのに、うちの子には手をかけてくれないと思われるかもしれませんが、その子ども、子どもによって、必要なことは異なるのです。

言葉の発達には個人差がありますので、現在、言葉が遅れていても、通常の保育で受け入れることが、そのお子さんにプラスになると思える場合は受け入れます。しかしながら、1対1の補助の教員を必要とする幼児の入園はお受けすることができません。補助の教員の配置を必要とする場合は、高松市立の幼稚園・こども園・保育園が対応する仕組みとなっています。当園のできることは、当園として対応可能な範囲で、その子どもにとって、居心地の良い状態を保ってあげることだけです。ですから、とても心苦しいのですが、こちらの通常の配慮では、そのお子さん自身の生命にかかわる危険が生じるおそれがある場合、また、他の園児との関係において重大な事故が発生するおそれがある場合、また、そのお子さんの成長のためには、幼稚園という施設での教育は適当ではないと判断される場合は入園をお断りしています。

Q. お昼は給食ですか？

A. みんなといっしょに楽しく給食を食べることによって、好き嫌いをなくし、バランスのよい食生活がおくれるようになることを目的として、本園では創立以来50年以上にわたり給食を行っています。温かいものは温かいうちにおいしく食べられるように、園内の調理室で調理しています。調理師免許保持者が衛生的に安全に調理しています。

※ 食物アレルギーへの対応は、形のある卵の除去程度しかできません。

給食献立の例（6月第3週）

月	親子うどん 野菜サラダ ミニトマト
火	バターロール 白身魚のフライ 中華風酢の物 牛乳 ゼリー
水	ふりかけご飯 さんまの鰹節煮 チンゲンサイのいり煮 澄し汁
木	レーズンパン 肉団子 マカロニサラダ 牛乳 桃の缶詰
金	ご飯 厚揚げとキャベツの味噌炒め ワンタンスープ 揚げ餃子

Q. 預かり保育は、何時までですか？

A. 給食のある日は、14:45までは無償でお預かりし、それ以降を預かり保育として17:45までお預かりしています。当園では、就労証明を受けなくても、預かり保育を受けることができます。長期休業中も17:45までお預かりしています。ただし、預かり保育の無償化の対象となるためには、新2号認定（保護者の就労証明）を受ける必要があります。満3歳児は預かり保育の無償化の対象とはなりません。

Q. 保護者会ではどのような活動をしているのですか？

A. お子さんの幼稚園生活がよりよいものになるように、保護者の方も教職員も、ともに学び、ともに成長していくための活動として保護者会があります。保護者会では保育参観、講演会の他、会員相互の健康と教養を高めるために、コーラス、手芸その他のサークルや、各種の講座も開かれています。職員室の2階には子育て支援ルーム「虹の部屋」があり、手芸部等の活動や地域の育児サークル等に利用されています。



Q. 通園バスは自宅まで迎えに来てもらえますか？

A. 当園では、通園バスを1台運行しています。バスの乗車時間をできるだけ短時間にし、園児の負担を少なくするために、通園バスの運行は、原則として、直線距離4km以内で、現在当園の通園バスが運行しているルートに限らせていただきます。当園が指定する場所での乗降となります。さぬき市、三木町にはまいません。通園バスについては、入園手続き前にご確認の上、入園手続きをしてください。

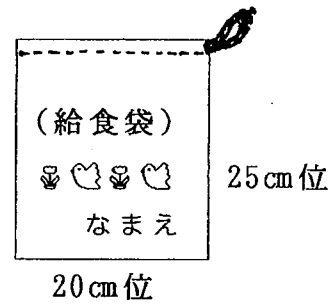
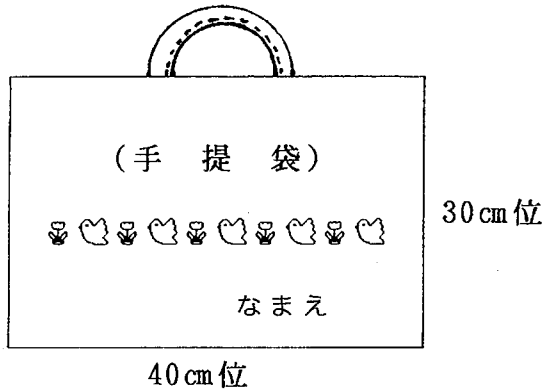
入園までにご用意いただくもの

手作り・市販品等自由です。(下図参照)

満3歳・3歳児 絵本等を入れる手提袋、上ぐつ袋、給食袋、コップ袋、着替え袋

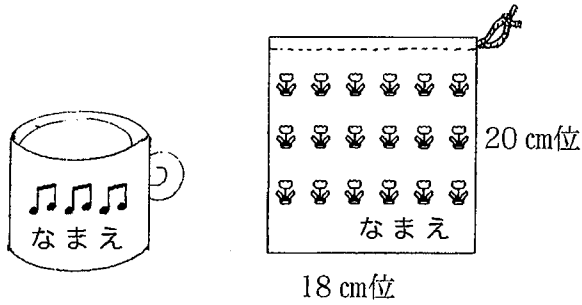
4・5歳児 絵本等を入れる手提袋、上ぐつ袋、給食袋、コップ袋

※ 全部、袋の表の、よくわかる場所に氏名を記入しておいてください。

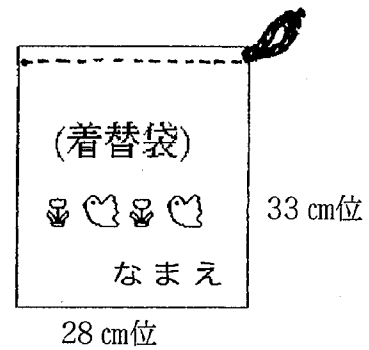


・手提袋は小さくなりすぎないように

コップ袋 (コップと歯ブラシ)



3歳児の着替え袋



- ・コップはわれにくく、安定しているもの
 - ・布袋はコップの出し入れのしやすいもの
- コップと歯ブラシを入れます

※上靴は前ゴムのバレシューズを用意してください。

(周囲のゴム部分の色は自由です。)

靴の前と後ろ(かかと側)に記名してください。

外靴にもできるだけ見やすい所に記名しておいてください。

